

# 厚労科研 辻井班（発達研修開発）

## 3) 家族支援（きょうだい支援）

### 1. 家族支援の重要性、ペアレント・プログラム

愛知東邦大学人間健康学部

高柳 伸哉

# 本項目での内容

## 1) 家族支援の重要性

- 「発達障害者支援法」の改正における位置づけ
- 制度における家族等支援事業の内容
- 子どもの発達障害特性と養育行動の関連
- 乳幼児期における「気づきの段階」での支援

## 2) ペアレント・プログラム(ペアプロ)の紹介

- ペアプロ開発の背景、ペアプロの概要
- ペアプロ参加者への効果
- ペアプロの内容の一部紹介

# 1) 「発達障害者支援法」の改正 (H28年8月1日施行) における家族支援の位置づけ

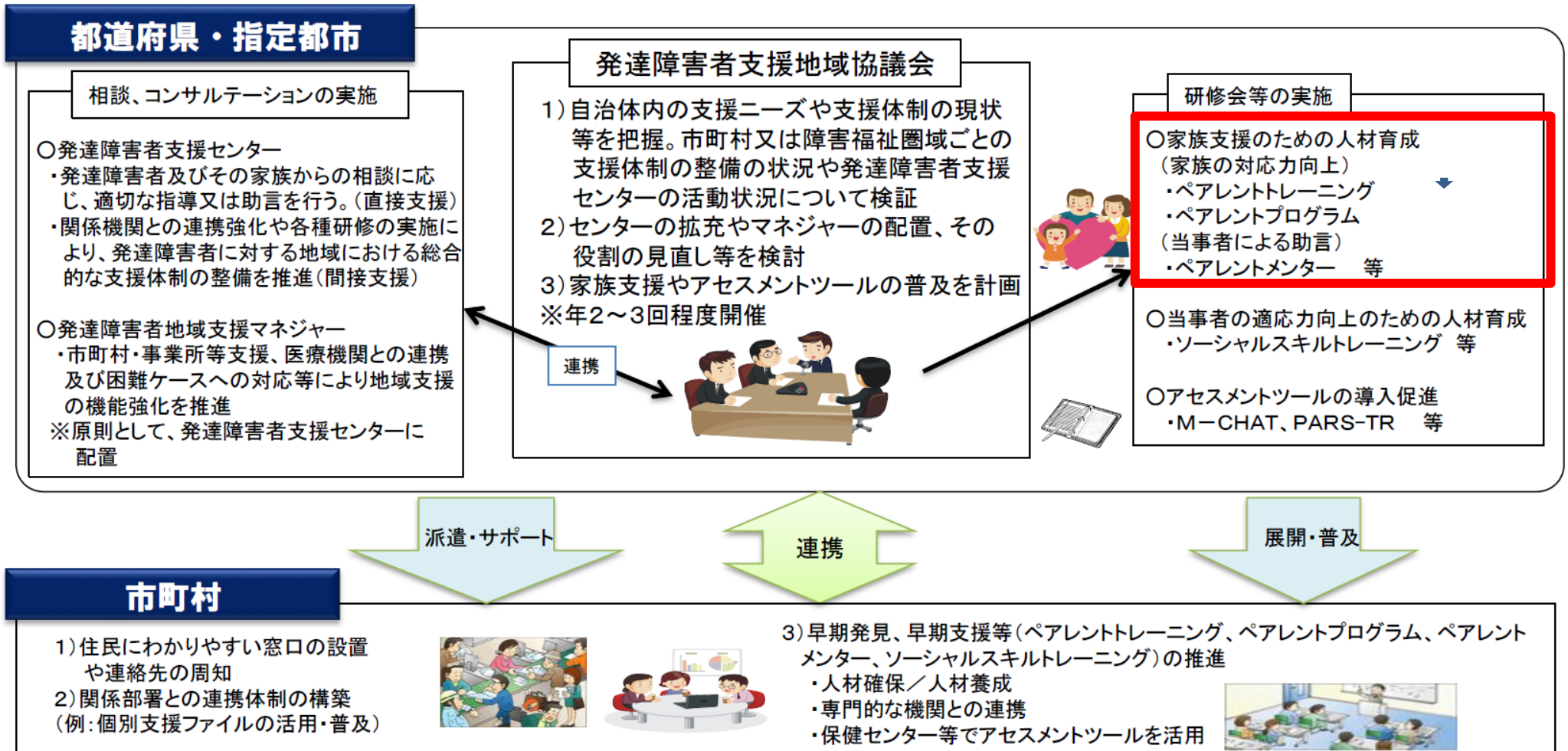
- 「発達障害者支援法の一部を改正する法律」(平成28年法律第64号)
  - 都道府県及び市町村は、発達障害者の家族その他の関係者に対し、相談、情報の提供及び助言、発達障害者の家族が互いに支え合うための活動の支援等を行うよう努めること。
- 「発達障害児者及び家族等支援事業の実施について」(厚生労働省, 2018)<sup>1)</sup>
  - 平成30年4月1日より適用: 発達障害者の家族が互いに支え合うための活動等を行うことを目的とし、発達障害者及びその家族への支援を強化するための実施要綱を提示。

# 発達障害者支援体制整備

(厚生労働省, 2019)<sup>2)</sup>

乳幼児期から成人期における各ライフステージに対応する一貫した支援を行うため、関係機関等によるネットワークを構築するとともに、ペアレントメンター・ペアレントトレーニング・ソーシャルスキルトレーニングの導入による家族支援体制の整備や、発達障害特有のアセスメントツールの導入を促進するための研修会を実施する。

また、市町村・事業所等支援、医療機関との連携や困難ケースへの対応を行うための「発達障害者地域支援マネジャー」を配置し、地域の中核である発達障害者支援センターの地域支援機能の強化を図る。



# H30年度以降... 発達障害児者及び家族等支援事業実施要綱<sup>1)</sup>

## ①ペアレントメンター養成等事業

ペアレントメンターの養成に必要な研修の実施、活動の支援 など

## ②家族のスキル向上支援事業

ペアレント・プログラムやペアレント・トレーニングの実施、支援者養成 など

## ③ピアサポート推進事業

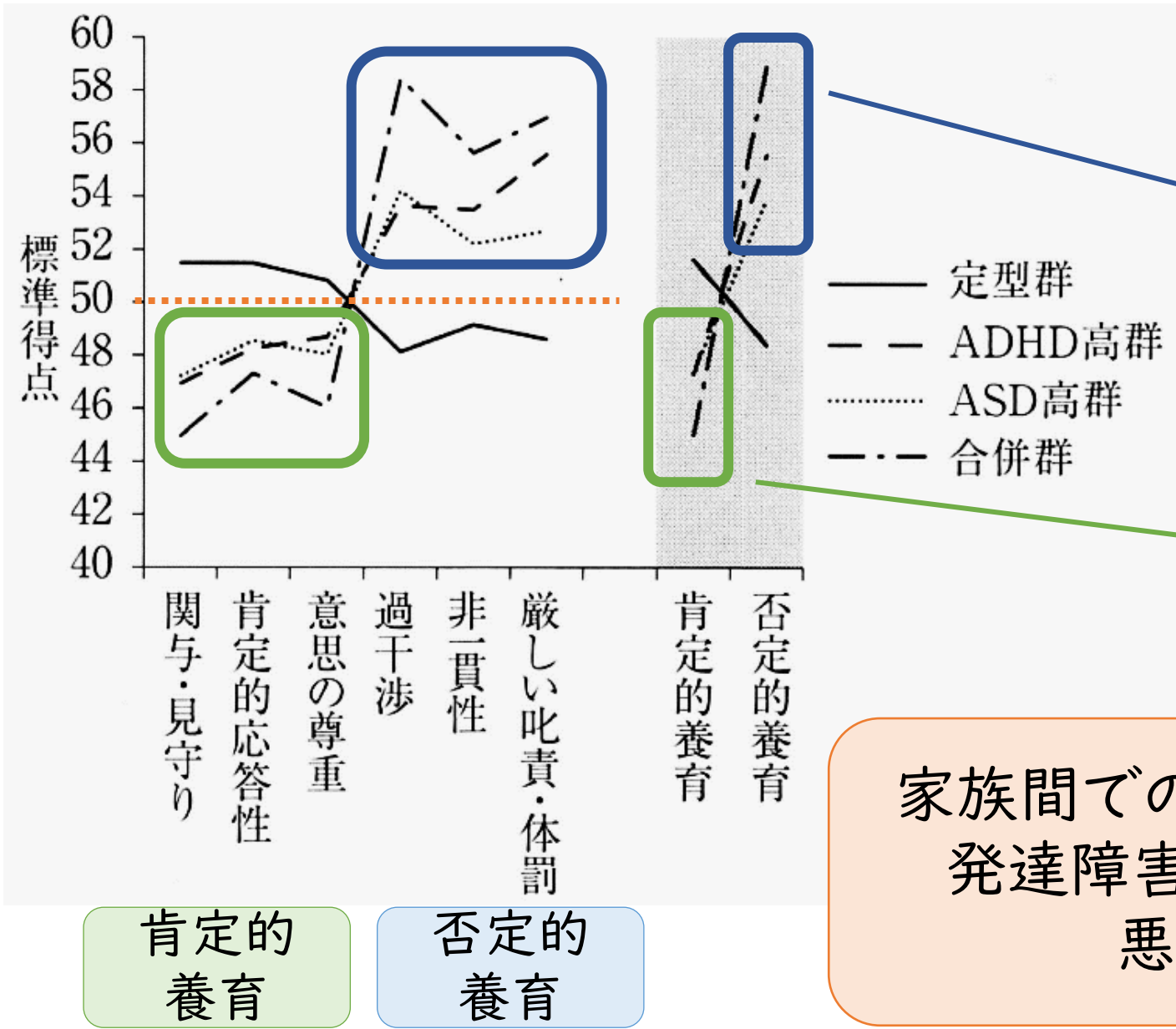
発達障害の子をもつ保護者や配偶者、きょうだい同士及び本人同士等がお互いの悩み相談や情報交換等の支援、ファシリテーターの養成

## ④その他の本人・家族支援事業

適応力向上のためのSSTや上記以外の家族支援プログラム等の実施

PNPS肯定的・否定的養育行動尺度  
マニュアル(p.26)<sup>3)</sup>より

子どもの発達障害傾向と  
保護者の養育行動の関連



発達障害のある子どもの保護者は、定型群とは逆で  
肯定的な関わりが少なく  
否定的な関わりが多い  
さらに、発達障害傾向が重複するほど顕著

家族間での不適切な関わりや悪循環、  
発達障害児の情緒・社会適応への  
悪影響も懸念される。



# 乳幼児期における「気づきの段階」での支援

- 乳幼児発達健診における確認と問いかけ（保健センター）
- 子どもの集団行動や友人関係の様子（保育園・幼稚園）
  - ・「障害=重度のもの」と捉えてしまう可能性
  - ・診断ではなく「支援」から考える（社会モデル）
  - ・説得するより、まずは家族の話を聞くことを優先する
  - ・運動会などイベント前の事前の配慮を話し合いのきっかけにする
  - ・地域の巡回相談支援の活用、保健師や支援センターとの連携

保護者の障害受容の否定を強めている要因への配慮

→ 家族の気づいている「子どもの行動の特徴と困難感」を扱う

# 保護者のニーズと医療支援をつなぐ 「社会モデル」

ペアレント・プログラム  
マニュアル(p.7)<sup>4)</sup>より

- ・保健師・保育士等による支援の実施
- ・支援の窓口として、医療・療育への紹介・連携も可能

各地域に今ある  
資源を活用して  
いくための  
共通支援  
プログラム

## 医療 モデル

<乳幼児健診>

- ・発達検査
- ・保健師による面談

気になる子どもの

フォロー、医療機関  
への紹介

<医師、専門家>

- ・医師による診断
- ・療育機関での支援

## 社会 モデル

<地域での支援>

(保健所・保育所・児童センター)  
保健師、保育士、福祉職員

- ・子育てへの相談、助言
- ・関わり方の支援

<支援機関との連携>

(児童発達支援センター  
あるいは障害児福祉事業所等)

- ・専門家とのネットワーク
- ・支援技法の研修
- ・保護者と専門機関の仲介

## 実際の 子育て

<保護者の悩み>

- ・子育ての難しさ
- ・発達の不安

<保護者のニーズ>

- ・子育ての相談やアドバイス
- ・身近で頼りやすいサポート源

ニーズへの  
対応と支援の  
連携促進



## 2) ペアレント・プログラム (ペアプロ)

### 保護者向けチラシの例

発達障害情報・支援センター  
Webページ

[http://www.rehab.go.jp/ddis/こんなとき、  
どうする？/家族支援/ペアレントプログラム/](http://www.rehab.go.jp/ddis/こんなとき、どうする？/家族支援/ペアレントプログラム/)

子育て一般に関わる基本的  
かつ重要なスキルを学ぶことが  
できるプログラム

## 楽しい子育てのための ペアレント・プログラムに 参加してみませんか。

- 子どもの困った「行動」に  
お悩みではありませんか？
- できるところをみつけて、  
ほめるコツを学びませんか？

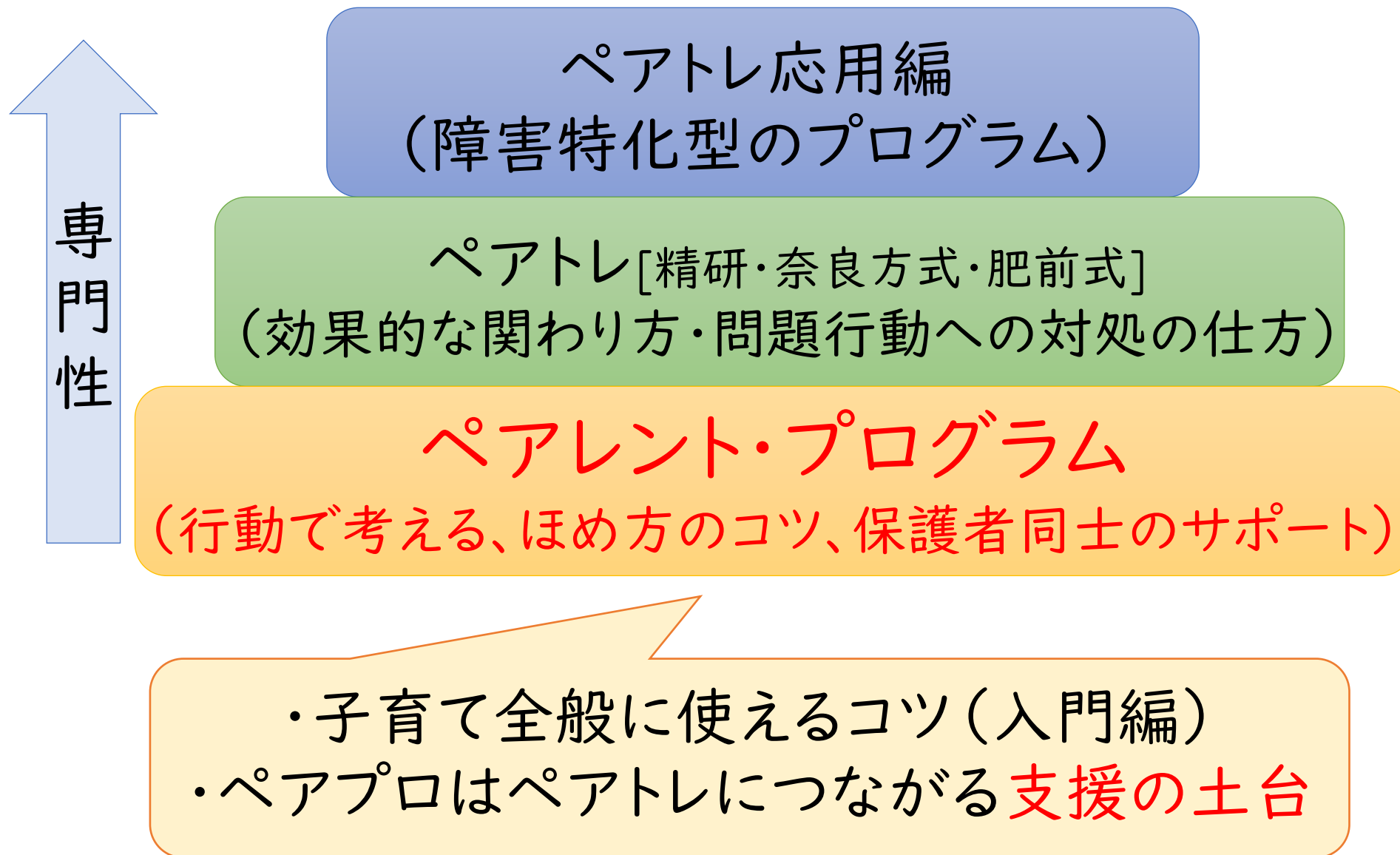
このペアレント・プログラムは、  
子育てに難しさを感じる保護者の方が  
お子さんの「行動」の理解の仕方を学び  
**楽しく子育てをする自信をつけること**  
**子育ての仲間をみつける機会とすること**を  
目的とした全6回のプログラムです。  
ぜひ、ご参加ください。



ペアプロとは… 「行動で考える」ことに特化し、保護者の  
認知の枠組の修正をめざしたプログラム

- 子どもに対して…  
具体的な働きかけはほとんどしない（ほめるのみ）  
子どもの「行動」を正確に捉えることを目指す
- 保護者の認知に対して…  
おおざっぱな全否定・ネガティブな考え方から  
行動レベルで見た具体的（ポジティブ）な考え方へ

# ペアプロとペアトレの関係



# ペアプロとペアトレの背景理論と目的



効果のない関わり、悪循環の養育など

ペアプロ  
(認知行動療法)

子どもの見方・関わり方の基本  
→ 養育者の考え方・  
関わり方の変容



ペアトレ  
(応用行動分析)

子どもへの適切な関わり方  
→ 子どもの行動変容



# ペアプロの内容 <3つの柱>

参加者自身の  
自己理解と  
自己受容を促す



自分編  
子ども編

「行動」で考える

現状把握表



できたことを  
ほめて対応する

保護者が  
仲間を見つける



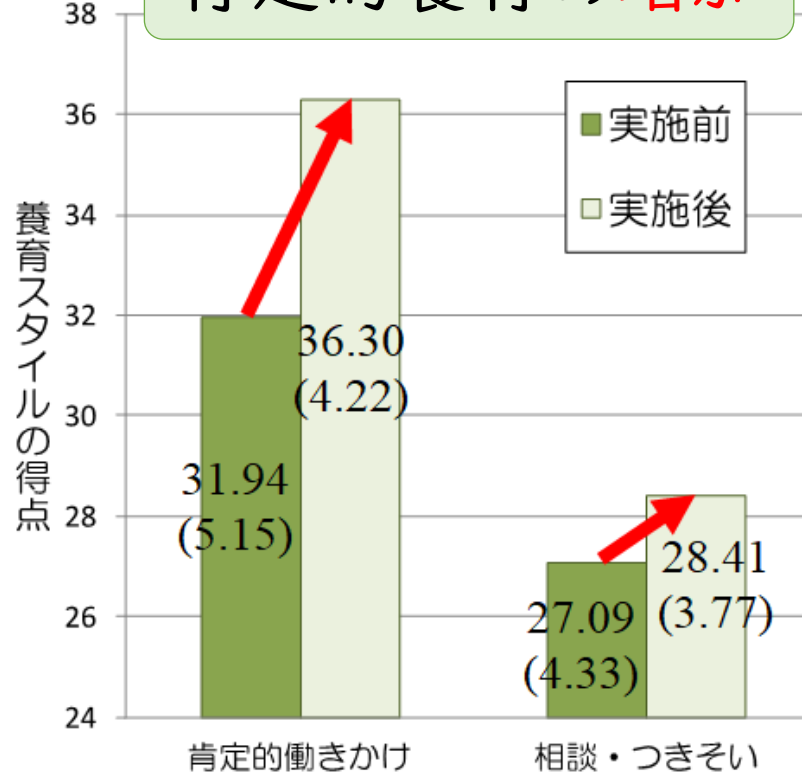


## 保護者におけるペアプロの効果 (浜田ら, 2018)<sup>5)</sup>

- 調査時期 平成26年 9月 ~ 3月 ● 実施地域 25地域
- 参加者 参加前・参加後の質問紙に回答した184名  
(男性6名、女性175名、平均年齢39.79歳 (SD=6.04))
- 調査内容 質問紙調査
  - 日本語版ベック抑うつ質問紙 (BDI-II)
  - 養育スタイル尺度 (松岡ら, 2011)  
保護者の養育スタイルを肯定的・否定的の2側面から捉える尺度 (肯定的働きかけ、相談・つきそい、叱責、育てにくさ、対応の難しさ)
  - Strength and Difficulties Questionnaire (Goodman, 1997)  
SDQ 子どもの特性を捉える尺度

# ペアプロの参加者への効果 (浜田ら, 2018) <sup>5)</sup>

## 肯定的養育の増加



肯定的働きかけ

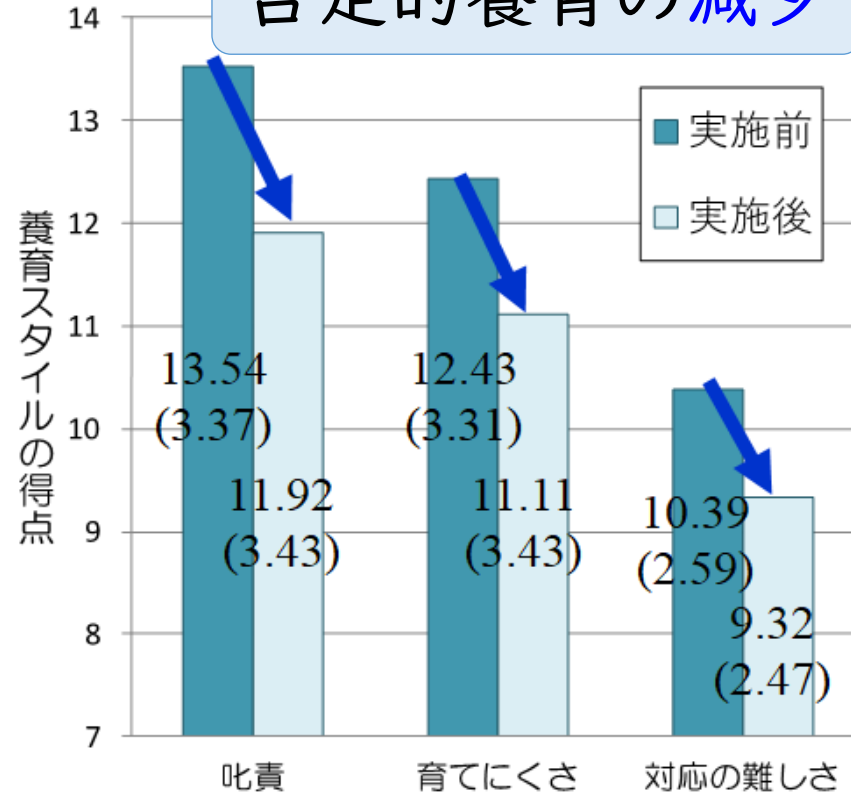
$t(180)=13.44^{***}$ ,  $d=13.44$

相談・つきそい

$t(180)=5.90^{***}$ ,  $d=5.90$

$*** = p < .001$

## 否定的養育の減少



叱責

$t(180)=-7.40^{***}$ , 効果量  $d=7.40$

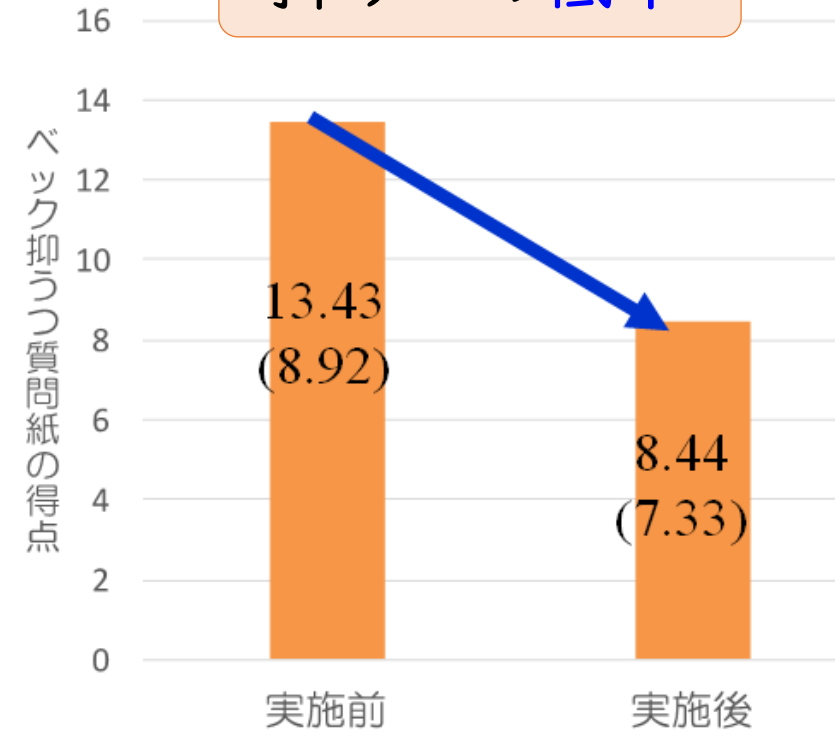
育てにくさ

$t(180)=-6.53^{***}$ , 効果量  $d=6.53$

対応の難しさ

$t(180)=-5.66^{***}$ , 効果量  $d=5.66$

## 抑うつ低下



抑うつ

$t(183)=-9.57^{***}$ , 効果量  $d=9.57$

# ペアプロの流れ

全6回（2週間に1回程度） 1回1時間～1時間半  
宿題発表→説明→ワーク（個人・ペア）→発表→宿題

|     | 各回のタイトル           | 取り組む内容・目標         |
|-----|-------------------|-------------------|
| 第1回 | 現状把握表を書く！         | 「行動」で考える          |
| 第2回 | 行動で書く！            | いいところに気づく         |
| 第3回 | 同じカテゴリーをみつける！     | 全体を見る             |
| 第4回 | ギリギリセーフをみつける！     | 困ったところの<br>見方を変える |
| 第5回 | ギリギリセーフをきわめる！     |                   |
| 第6回 | ペアプロでみつけたことを確認する！ | 次につなげる            |

# 第1・2回：現状把握表の内容、各欄のポイント

| いいところ  | 努力しているところ                       | 困ったところ                                |
|--|---------------------------------|---------------------------------------|
| 日常生活を送るために続けてできている行動（ <b>適応行動</b> ）<br><br>× 人に自慢できる<br>× 人より優れている | たまにできる行動<br>支援／サポート／工夫があればできる行動 | すぐには改善できない行動<br>困っているのは、本人・周囲のどちらでもよい |

大人でも「困ったところ」はある

目安：  
6～7割  
できている

目安：  
1～2割  
「やろうと思っ  
ている」もOK

自分編・子ども編を  
作成することで  
**子ども理解**に加えて  
**自己理解**も促す

## 行動で考える・伝えることのメリット

- 人の様子を見て自然に学ぶことや曖昧な言葉で理解するのが難しい子どもにも**伝えやすい**。
- 情報共有の際、あいまいな形容詞・イメージではなく、「何がどこまでできているか、次に何をできるといいか」について、**共通の認識を作りやすい**。
- **やっていることを言葉にするだけで**、子どもはほめられながら適切な行動を確認できる（実況中継風）。



### 第3回： カテゴリー分けの例（並べ替える宿題）

| 種類     | いいところ  | 努力しているところ            | 困ったところ             |
|--------|--|----------------------|--------------------|
| 言葉     | 絵本を読みセリフを言いたがる   |                      |                    |
| 人との関わり | 近所の人に挨拶ができる  | 妹におもちゃを貸すことがある       | 他の子を叩いてしまう         |
| 食事     | 一人でスプーンで食べる  | 箸で食べようとする            |                    |
| トイレ    | おまるでおしっこができる   | 排便後に「うんち」と自分で言うことがある |                    |
| 気持ちの調節 | <div data-bbox="637 1021 1796 1413" data-label="Text"> <p>できていることや苦手なところの傾向が分かりやすくなる。具体的な行動を把握した上で、まとまりを作れることが大事！</p> </div> |                      | 思い通りにならないとものを投げる   |
|        |  |                      | 欲しい物があるとダダをこねて突っ伏す |

行動の種類で分ける。

「性格」は×！

# 第4回：ギリギリセーフを見つける!の例

| いいところ               | 努力しているところ              | 困ったところ                |
|---------------------|------------------------|-----------------------|
|                     | 「歩くよ」と言われると少しは歩くことができる | スーパーで走り回る<br>(毎日)     |
|                     | 自分でひととおりハブラシをあてる       | ハミガキをいやがる             |
| 落ち着いた後に「ごめんなさい」が言える | 注意されれば止められる            | 他の子に手を上げる<br>(月に2回ほど) |
| 近所の人にあいさつをする        | 妹におもちゃを貸すことがある         |                       |

困ったところは残したままで、**努力に追加**する!

少しでもやれている、踏みとどまれることを見つける力  
足し算の見方

※数えられるものは、回数や量、頻度などを書きましょう。

# 第5回：子ども編のギリギリセーフ、デンジャラス〇〇発見の例

| いいところ  | 努力しているところ   | 困ったところ  |
|--|---|---|
| <p>小さなコンビニでは<br/>親と一緒に歩ける</p>                  | <p>← スーパーが空いていれば<br/>親と手をつないで歩ける<br/>ときもある。(月2回ほど)</p>          | <p>スーパーで走り回る<br/>デンジャラス・ゾーン<br/>↓<br/>店内に人が多い時間帯<br/>デンジャラス・タイム</p> |
| <p><u>Bちゃん</u>とは<br/>落ち着いて好きな遊び<br/>を一緒にする</p> | <p>←</p>  | <p>他の子に手を上げる<br/>↓<br/>Aくんとよくケンカする<br/>デンジャラス・パーソン</p>              |
|  | <p>先生から<br/><u>できそうな問題を</u><br/><u>提示されれば</u><br/>取り組むこともある</p> | <p>思い通りにならないと<br/>物を投げる<br/>↓<br/>難しい宿題で<br/>デンジャラス・タスク</p>         |

不適応行動が  
起こりやすい条件  
(場所や時間、  
状態など)が  
分かると、対策を  
考えやすくなる!

↓  
環境調整など

# ペアプロでのワーク全体像

| いいところ        | 努力しているところ          | 困ったところ                   |
|--------------|--------------------|--------------------------|
| 6-7割できていればOK | 少しでもできている、やろうとしている | なかなかうまくできない、不適切な行動をしてしまう |

ほめポイントを増やし、隠れた努力を見つけ、子どもを励ます!

困りやすさを予測し、条件を見出して解決を目指す!

ギリギリセーフ行動

- ・部分的にできる、環境を整えばできる...
- ・踏みとどまるコツ・努力

危険な条件

場所、時間、人、課題、状態...

デンジャラス・〇〇

## 家族支援、ペアプロのまとめ

- ・発達障害児者の家族の関わりは大きな影響を及ぼすため、家族へのケアとサポートが必須である。
- ・「気づきの段階の支援」では、社会モデルによる支援が必要。
- ・ペアプロは実地研修が必要だが、地域の保健師・保育士らが主体となって運営可能なプログラムで、比較的实施しやすい子育て支援の入門編。
- ・保護者の認知変容を目的とし、「行動で考える」こと、「できたことをほめる」こと、「保護者が仲間を見つける」ことの3つを柱とする。支援の入口ともなる。
- ・ペアプロの実施はできなくても、福祉施設や教育機関で、ペアプロの視点や内容のポイントを、保護者との情報共有やサポートに活用できる。



## 引用文献

- 1) 厚生労働省 2018 発達障害児者及び家族等支援事業の実施について  
障発0409第8号 平成30年4月9日
- 2) 厚生労働省 2019 発達障害者支援施策について 発達障害支援の地域連携に係る全国合同会議
- 3) PNPS開発チーム(編) 辻井正次(監修) 2018 PNPS肯定的・否定的養育行動尺度マニュアル 金子書房
- 4) 特定非営利活動法人アスペ・エルデの会 2015 楽しい子育てのためのペアレント・プログラムマニュアル2015-2020
- 5) 浜田 恵・野村和代・伊藤大幸・村山恭朗・高柳伸哉・明翫光宜・辻井正次 2018  
ペアレント・プログラムによる保護者支援と支援者研修の効果 小児の精神と神経,  
57(4), 313-321.